

安藤広重描く中山道の風景が今も残っているという笠取峠松並木、歴史の一角



マを体験できるのが嬉しいですね。峠の入口に2人の男女が寄り添う微笑ましい道祖神も皆様を見送ります。

峠を過ぎ芦田宿へ、今も旅籠を営んでおられるウダツのある金丸土屋旅館がある。格子窓のある部屋に泊まってみたいくなる、そんな旅籠。

昔を思い浮かべながら歩くそんな楽しみを味わえる、中山道ウォーキング。

案内係をしておりますと、いろんな質問も多く自分も勉強させられ、より深い案内ができ親睦につながっております。

人通りの少なくなつた街に一日でも大勢の人が来る、ふれあいの中山道と町の活性化になればと想い続けたいです。今後も皆様の応援をよろしく願っています。

訪問者が増える『茂田井間の宿』

大角 貞夫（茂田井）

中山道「茂田井間の宿」を訪れる旅人が年毎に増えております。「こんにちは、どちらからおいでになりましたか？」と60歳代位の男性に尋ねましたところ「私の家は習志野市だが、今、東京日本橋から中山道を歩いて今日で五日目。長い道中各宿場を見てきたが、この「間の宿」

が一番昔の面影があるなあ。土蔵や格子戸の付いた民家、街道脇の小川を見てせせらぎの音を聞きながら旅するなんて最高。昔の情緒たっぷりですな。この遺産は未永く保って欲しいな。」等と、この「間の宿」を褒め称えてくれました。慶長年間にできた中山道は、姫街道と

して京都と江戸の交流を盛んにさせました。初代名主大沢茂右衛門以降歴代名主により、住民の生活が豊かになるよう努力を重ねられました。良質なお米や蓼科からの湧き水を利用し、2軒の造り酒屋も繁盛し、この街道を盛り上げたものでした。今残されている酒蔵や、当時の情緒溢れる門塀、土蔵や住宅の格子戸、街道に沿って流れる小川の清らかな水、そしてせせらぎの音等、江戸時代の面影、風情を感じさせます。中山道は特に女性に人気があった街道と聞いていますが、お城にお勤めの侍も、長い道中を心弾ませながら往来したものと思います。

「茂田井間の宿」を訪ねる旅人を、住民挙げて心のこもつたおもてなしをしようと、数年前から茂田井区運営協議会が中心になり、一里塚の整備、公衆トイレの設置、案内板や道標、問伐材を使った手作りベンチの配置、各家庭で育てた草花を街道筋に添える等、旅人対策を区民総出で進めて参りました。

そして、区民みんなで五項目の「おもてなし宣言」を主題に、笑顔で快くお迎えしようと心掛けております。

今年も、秋には中山道ウォーキングのイベントがあると思いますが、特産品を提供したり、抹茶の振る舞い、飲物やお蕎麦を差し上げ、区民みなでお迎えし、おもてなしすることになっており

ます。イベント参加者の中には、侍やお姫様の衣装を身に付けたボランティアもあり、一緒に写真に納まった区民の皆さんの中には、良い冥土の土産が出来たと生き甲斐を感じている方もおります。

最近、クローズアップされた中山道「茂田井間の宿」は1.7kmありますが、往時のままの木造建築が大半であり、老朽化も激しく、周囲の景観をも含め、先人達の残したかけがえのない遺産を、そのまま如何にして後世に残すかが今後の大きな課題です。「茂田井間の宿」の保存に皆様の知恵・ご協力をお願い致します。

